

第2章 遺構と遺物

第1節 調査の概要

当地区の調査では堅穴建物跡1棟、溝1条、土坑9基、その他の遺構7基、ビット80基が確認され、出土遺物は、縄文土器292点、土製円盤1点、石器・剥片51点、土師器3点、須恵器3点、中世かわらけ5点、中世陶器3点、近世磁器1点、近世陶器3点、礎盤石に転用された石皿1点、炭化物4点、合計367点が出土した。

第2節 各時代の遺構と遺物

第1項 旧石器時代の遺物

当調査地区では、遺構外であるⅢ層及びⅣ層中から流れ込みと思われるチャート、黒曜石等の遺物が多数出土していること、また調査区が崖線至近の傾斜地に位置していることを鑑み、トレンチ掘削による旧石器調査を行った。なお、トレンチの掘削深度は、工事予定深度に基づき決定した。また、調査区南部については、縄文時代の遺構確認面より下層に工事掘削が及ばないことからトレンチ調査は実施しなかった。

調査はグリッドL 55 (21・22, 25・26) の位置に1.5 m × 3.5 m のトレンチを設け人力にて行い、その結果、Ⅵ層(武蔵野Ⅳ層)より石核1点、剥片6点が出土した。石核1点(6001)、剥片5点(6002～6006)を図示した。

第2項 縄文時代の遺構と遺物

当調査地区からは縄文時代の遺構として、堅穴建物跡1棟(L 55-S I 23)が検出された。

当該地東側(1388.T次・509次・1295次調査ほか)では、縄文時代前期末葉と中期前半を主体とする集落跡(本宿町遺跡)が確認されており、当調査区で確認された堅穴建物跡、遺物も同集落と有機的に関連するものと思われる。縄文時代の遺物は、土器292点、土製円盤1点、石器・剥片44点が出土した。土器の時代幅は前期末葉から後期前葉であるが、中期初頭から中期前半の土器が大半を占める。

1. 堅穴建物跡

L 55-S I 23 (別表1・6, 図面七・十五, 図版五・八)